

研究結果報告書

氏名： NGUYEN THI HOAI CHAU 印
所属： ベトナム国家大学
 ホーチミン市校人文社会科学大学日本学部
役職： 教授

研究結果

日本における火葬文化とその展開に関する文化人類学的研究 －ベトナムへの応用可能性の観点から－

本研究の目的は文献研究と現地調査を通じて、ベトナムへの応用可能性の観点から、現在、日本における火葬及びその後の焼骨の扱いを明らかにすることである。文献研究を通じて日本における火葬の政策を含む墓地・埋葬に関する法律規則や火葬の歴史、焼骨の扱いの特徴と展開状況を理解することになった。万葉集で記録したとおり、日本では古代時代から火葬が行われた。平安時代から仏教的要素を受け入れてきた火葬は、近代になってから、2年の火葬禁止令が解除された後、家墓とともに定着してきた。現在、火葬率がほぼ100%で、家墓の他に、納骨堂や樹木葬等は普及が進んでいる。

現地調査に関しては、ベトナムでは9/2020～4/2021に1カ月でホーチミン市での火葬場や寺院の納骨堂等において、そして主に2022年7月22日～2022年8月11日、東京での火葬場、納骨堂、樹木葬施設等において観察や聞き取り調査を行った。

日本においては家族意識や宗教観念が多様な変容を遂げている背景には、ご先祖を供養する場所としてのお墓にお墓参りをする習慣が強く根付いている一方で、伝統的な家墓への拘りが弱くなり、代わりに納骨堂や自然葬への注目度が高まってきた。ベトナムにおいては、土葬墓地の不足やお墓の高額な費用の問題が深刻化している中で、火葬の受け入れ率と普及率が高くなり、家墓や納骨堂等の供養の方法が多様化してきた。ベトナム人の家族と宗教生活の中で最も大きな位置を占める祖先祭祀を支える新しく出た父系的な家墓が注目を浴びている。しかしながら、ベトナムではジェンダー意識や家族観念の変化がおきている背景には、日本の無縁墓の問題等の経験から考えると、今後このような供養の方法がどのようにならなければならないか、また日本に注目されるように自然葬がどのように意識され、関心を持つかについて研究を続けたいと考える。

研究成果の公表について(予定も含む)

口頭発表 (題名・発表者名・会議名・日時・場所等)

題名 : Studying about the trend of cremation in Vietnam today
(Through the case of Ho Chi Minh city,Vietnam)
(現在、ベトナムにおける火葬の傾向
- ホーチミン市のケースを通じて -)

発表者名 : Nguyen Thi Hoai Chau

会議名 : The Twelfth Convention of Asia Scholars (ICAS12)

日時 : 2021年8月24日~28日

場所 : オンライン

論文 (題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等)

題名 : The cremation method and the influential factors to the
Development of cremation in Japan
(日本における火葬と火葬の発展への影響要素)

発表者名 : Nguyen Thi Hoai Chau

論文掲載誌 : Science & Technology Development Journal-Social Sciences &
Humanities, 6(1)

掲載時期 : 2022, January

書籍 (題名・著者名・出版社・発行時期等)